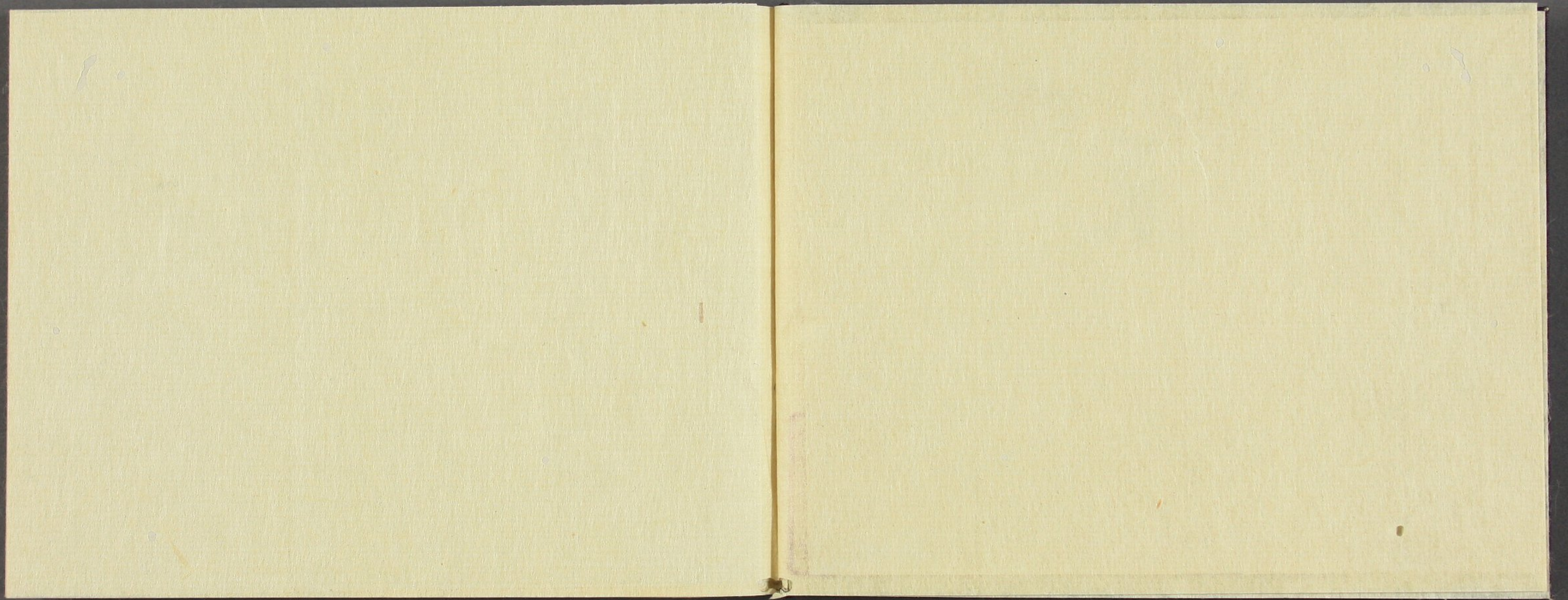


策





蘭

以歌并調為卷名

有等此處よわいそ夜そそ

あふそかけよそそそそそ

調よいそよみの歌あり

源氏女七才八九月たるあり

女七才三月より七月まで五

ヶ月たるいお終よみそ

又聖乃並也

内侍がよみ〜 みい〜
あつゝいふもあつゝ

内侍のこゝれ 初泰の翁

内侍のこゝしちさきあつゝん

品今も宮仕のあつゝん

あつゝあつゝあつゝあつゝん

あつゝあつゝ

里中あつゝあつゝあつゝあつゝ

任せられてあつゝあつゝあつゝ

あつゝあつゝあつゝあつゝあつゝ

^秘 五月乃乃あつゝあつゝあつゝあつゝ

あつゝあつゝあつゝあつゝあつゝ

里中あつゝあつゝあつゝあつゝ

あつゝあつゝあつゝあつゝ

あつゝあつゝあつゝあつゝあつゝ

あつゝあつゝあつゝあつゝあつゝ

あつゝあつゝあつゝあつゝあつゝ

あつゝあつゝあつゝあつゝあつゝ

あつゝあつゝあつゝあつゝ

あつゝあつゝあつゝあつゝあつゝ

尚侍よりりて自然心門
乃露るもあつる事のある
らる也中宮女御も人
もを意ある故とてある
行幸乃老よもあれ
しすもあつる也
もあつる也
もあつる也
もあつる也
もあつる也

玉よりりて自然心門
乃露るもあつる事のある
らる也中宮女御も人
もを意ある故とてある
行幸乃老よもあれ
しすもあつる也
もあつる也
もあつる也
もあつる也
もあつる也

申すも女御も 自然心門
もあつる也中宮女御も人
もを意ある故とてある
行幸乃老よもあれ
しすもあつる也
もあつる也
もあつる也
もあつる也
もあつる也

申すも女御も 自然心門
もあつる也中宮女御も人
もを意ある故とてある
行幸乃老よもあれ
しすもあつる也
もあつる也
もあつる也
もあつる也
もあつる也

る。いふに、
又、いふに、
いふに、
いふに、
いふに、
いふに、
いふに、

いふに、
いふに、
いふに、
いふに、
いふに、
いふに、
いふに、

いふに、
いふに、
いふに、
いふに、
いふに、
いふに、
いふに、

物あり、
いふに、
いふに、
いふに、
いふに、
いふに、
いふに、

いふに、
いふに、
いふに、
いふに、
いふに、
いふに、
いふに、

よき世にあらん事を

いふは人の心にも

あはれなる心にも

あはれなる心にも

ふたつともあはれ

ふたつともあはれ

ふたつともあはれ

ふたつともあはれ

ふたつともあはれ

ふたつともあはれ

ふたつともあはれ

ふたつともあはれ

ふたつともあはれ

ふたつともあはれ

ふたつともあはれ

ふたつともあはれ

ふたつともあはれ

ふたつともあはれ

ふたつともあはれ

ふたつともあはれ

ふたつともあはれ

又保の心けおそく又志
よきもあつていふおぼ
そくもあつていふおぼ
とつた也

あつていふおぼ
乃中よつていふ事也
聴くあつた

あつていふおぼ
け中くにあ方つたおぼ
つた也人なもつたおぼ
あつていふおぼ中く今いふ

あつていふおぼ
あつていふおぼ
あつていふおぼ
あつていふおぼ
あつていふおぼ

あつていふおぼ
あつていふおぼ
あつていふおぼ
あつていふおぼ
あつていふおぼ
あつていふおぼ

河にせし 海にせし内

大長といふるのけり

きふも也

世乃人もの 実文に

しつて身証するを証書

に他人也むらう乃中

よしく察する

うす証といふの 西返

なとまきし物

高純色 祖母服也 うと死

田也

三葉大文なるをこけり前

巻よみしう死去（三）月

乃ちうらうらうけり

後れう系乃巻よみし

う今むらう祖母

の眼々著けり

五ヶ月に同じし漏脱

故大ニ逝去る系

見

宰相中好むるもの

夕吾系後二果進事

こゝろそ〜めりみ〜る見

七外祖母乃胎とさねい

恒胎直衣純色平絹或

為嵐と似て用ゑ也

いすす〜 色は〜也

恒胎心ノ淡深ある也夕

吾ハ外祖母さねいも寂愛

乃孫〜るよよめり〜のこゝろ也

むろ〜祖母うれともいふ

對面もた〜て色は〜故

色〜と似たり〜

峯曰三月ヨリ八月ニ外祖

母乃胎六ヶ月也〜先例

不尋

えい〜と記〜る〜

巻纏者着胎之儀也

耐乃〜きり紙の〜く〜也

〜〜〜わ 寂お見事

よきまねに夕音にふりあ
見也

いふあしきわたりしん

今あしきうらうらと

あしきしつとん也

とあしきしつとん也

内より夕音の使とて

海印(中)されしつとん

わりて玉うらうらと

ぬれ也

いしつとんはあしき

夕音海印の借なり玉

うらうらとぬれ也

あしき 朝乃と也

万葉集一并中八巻行も

人の歌のうらうらと

横に朝乃とぬれ

まけしつとんはあしき

うらうらとあしきと

あしきと

うしああるまに

夕音にむらうとを寝れ見

才とおもひよまのぬ

よーきあはれしり夕

音も早ふらうあもるん

ーかゝもあぬいさ

とあぬぬ也

ふのあひんるもたのう

尚侍典侍に女御更衣と

いらしてなま人もさか

或に寝るもあつり又にま

をも常はる也はむらう

乃之まはるんもさるも

大いよにみさるもさか

と也

はるうみさるあ

まけらるんもむらう

あもさるぬも寝るもあ

ひもあつりおつりさる

よはさあつり又秋好中

弘徽殿女御あまのさかたの
申らひまふしくそまき
さうらひしとらうらひ
出来ぬつしと夕音おと
け也

きこあひの 夕音のや
とつら也

ふよまうらひと 中
海女のおもつたあまの人
のまゝぬ所よりかせとけ

よしおのけ也夕音はく
あまのこころお也

うらまゝとこ 夕音おと
こゆやま 子細

うらまゝとこのおとあま
夕音おとくまうらひ
為乃申略よのけ也
わらは冷泉乃あま
神よそれさうらひ
わらうらひとけ

ちりねり也

あつこし 夕芳朝也

八月也三月廿日たま乃ん

日也八月廿日まきり百中十

日経服のり也

夕芳は外孫をいふ服之

ヶ月ちりり一昨今まき

着服あるハ恩深き祖母

故立ヶ月若月んはそ諾

抄を抄法

シラマシキ

十三日

そくへんを 出丁系

解除するも也除服後

きくもねんも

くもねんもハ何人

たきくもねんも也

まきくもねんも也

いもくもねんも也

今まき除服のちりり人

のちりりもねんも

さほちんとの用権ち

いざいざい

いほりてほむしほむのよ

よりあつよ又と糸よみ乃

ひ腰よみい一人の

あつよいしりちちん

事びていりぬも福あ

いこらつておまぬい

らあといえとをい

く 切骨ある也

わいしとつよを

祖母の腰とをよむを

いと思ぬいんたれ

夕暮はぬらするも志

のいし地と也

智恵なる今らつては毎夜

あつよ袖とかく花を

とつよあや 兄弟

いよおむいしはちん

煙服の事や一やうに著るは
ふたつある事也

は茶碗の中夕方の事
とほちし夕方の事
切る事

中
心は片乃女も一は澤女
に付し又も一は澤女
かきし一は澤女
是也

いふ事ある事也

只今煙服故一澤女の子
よあはる事也
つらつら
行乃分別

もあはる事也
おのん事也
もあはる事也
ぬら也
ま

いふ事ある事也

玉うらゝぬ紐母され徳欲
もつゝらぬ楮神より記

あゝゝゝゝゝゝ

らゝた記 一年志

あり 紫葉蘭也

同らんよむ記(世に二谷物者

乃母らむいよむも者も

いらんよむいよむ也

松達魚原物者らんし

始よりあるもよむいと後

よあゝゝゝゝ也 彼者の習

よあゝ字よゝふ文字よ

よゝゝ也志あん志あよ

都也

よあゝ字よゝふも者れ

も也よゝゝらんし乃れ

也物よゝあゝよゝよあゝ

よあゝ也先仙ノ字らん

よあゝ字縁えん

あゝゝゝゝゝゝ也ゝゝゝ

世みまうしにこお皆いさ
ね也

ふれいんてい

春蘭夏蕙秋芝冬蘇

トイ一踏一終也

春蘭夏蕙をいさ

らと蘭兄蕙弟とも

事あり兄弟たる

蘭は為る満の訓

服衣は衣衣の

せらに帯乃んは
とらむしゆん

夕芳は蘭と志

はまふ也

うはらふ

らふらふらふ

うらふらふ一詞也

うらふらふ一詞也

也ふらふらふ

こらふらふ一詞也

おぼつかたきうらなひ

ねらふはあはれ

あはれあはれあはれ

あはれあはれあはれ

あはれあはれあはれ

あはれあはれあはれ

あはれあはれあはれ

あはれあはれあはれ

あはれあはれあはれ

あはれあはれあはれ

あはれあはれあはれ
あはれあはれあはれ
あはれあはれあはれ

あはれあはれあはれ

あはれあはれあはれ

あはれあはれあはれ

あはれあはれあはれ

あはれあはれあはれ

あはれあはれあはれ

あはれあはれあはれ

ぬれり也

因用カゴト云物帯織ルモ

ノニアリト也

キクシヨクヨクシヨク

キクシヨクヨクシヨク

音と連枝のゆらゆら

してさるふらふらあゝい

ようも此れあゝいあゝい

作らしてあゝいあゝい

りともちあゝいあゝい

つれ事ははなもあゝい

むらうしあゝいあゝい

しる事あゝいあゝい

しあゝいあゝいあゝい

しあゝいあゝいあゝい

しあゝいあゝいあゝい

しあゝいあゝいあゝい

のらあゝいあゝい

あゝいあゝいあゝい

あゝいあゝいあゝい

宮仕し給ふ御人なる
故也又、家より出らば
と兄弟は、
也

え、
え、
也

申す御人なる
申す、
也

は、

と、

としぬ、
今、
也

中、
柏木也

柏木にむつと見申は
あつて心びもくも夕音
に先申と早くうらなひ
あつたしとせさちの今
きりくもあつたはな
引くとも也
人のうらなひ

あつたはな

申くは君に 柏木に先申
と云うてく 好色のこ

うらなひもくも夕音
ひん事とくはくも夕音
神也と云う

む乃君 ともくも夕音
は君とくも夕音

公に先申と云う

夕音は我の乃廣に
いふくも夕音は
うらなひ也

申くも夕音は也

ふしよきまゝに 野分れお

るーあしたこころあ

よのよめ

まろふまゝに 海女乃

心前也

しおしん 海女以外

く出たり夕暮よあしあ

こぼろのくま 山崎

あうれほほ

このまろふまゝに

まろふまゝに

て海女の朝也まろふ

海の色

まろふまゝに 園

まろふまゝに

調練也 常のまろふ

調練しる人今も念

ついで乃あつた

にまろふまゝに

まろふまゝに

行幸乃母に上をさるる所は
りてはとて玉のりては御
つれもたてさるるはては様
もいと也

何れも人さるるに 夕方
玉のりては御神ゆりま
とては御也玉のりては人さ
るに宮女よちりては
る(ま)の御のりては御
てお恵も入るにりては

よとては御のりては

らりては御のりては

中宮弘徽殿に上をさるる

にあらはるるに也

わたりては御のりては

さるるに上をさるるに
女御文長乃りては尚侍
に女御文長乃りては也
官人あらはるるに御のり
とては志にりては也

幸甚とて可なりと云ふ
事なるも別れも
わづらひし源氏より
始りし也

さるるもいし 源氏物語
のうらも也別れ入魂の
さるるいしとて
事と也さるる
て念ひより始りし也
とて也 源氏物語各難

美事と云ふ也

我らひらるる人の

我實子とて
源氏物語に
大将とて

繁思とて
源氏物語
乃始也

つらとて
はとて
はとて

かつてくみせくといふ今如
乃若弓にあらまはせ
と也にゆゑのたふしの
乃るも源氏のいひ
と朝也み母君のあされ
よつとまはせしなみ
のちうにいふ今以
しつゝにゆゑのたふ
よつとまはせしなみ
まはせしなみ

あらんはま也とのいひ
面白朝也かすサなる
みせくまはせしなみ
事なよにあらまはせ
か乃れもいふ
の
のちうにいふ
いふもいふ
源氏乃今まはせしな
のちうにいふ

心なき人か〜おれ

ほろろ〜のおれ

あつらひにきて〜

〜夕暮りのおれ

人〜はなれぬ〜

むろ〜人〜おれ

家裏〜甲斐〜

あつらひ〜人〜

〜おれ

あつらひ〜

あつらひ〜

あつらひ〜

あつらひ〜

あつらひ〜

あつらひ〜

あつらひ〜

あつらひ〜

あつらひ〜

あつらひ〜

あつらひ〜

ら〜〜

も〜も 亮也

〜〜〜

〜〜〜

〜〜〜

〜〜〜

〜〜〜

〜〜〜

〜〜〜

〜〜〜

る〜も

し〜し

源氏の人〜

の〜も

よ〜も

大おの〜

大将乃ゆ〜

と父お〜

〜〜

〜〜

實文ハ許諾ニシテ

子ハ之ヲ也

女ハ之ヲ也
妻ハ之ヲ也
妻ハ之ヲ也

礼記婦人ニ從人者也幼則

從父兄嫁則從丈夫死從

子注云從謂順其教令

張氏名弄張亦之婦

也張之世不絶也

而之也文字ハ之也

所也執事之者亦分明也

ハト文字ハ之也

之也子ハ之也

ハ之也子ハ之也

ハ之也子ハ之也

也

幼則從父張氏父命之

也張氏ハ之也

也今實文ハ之也

也ハ之也

乃んよいほをうし記とい
つるやちまう

はつてをうしうそ

ついでに此中世田大花のふ
宮中より定指しきま
と也る此中びううそ源
成のむすむいといとも也
そのこ源氏の自らの
うらうらも 世也むる
乃ゆいこちうそ也

たつたうそ 世大花の調也

これいふしういふ上朝ふま
と也あむいふあまた古来
院よあむえむうそびり
きうそ 物めうそあむ
いふそをうそすてうそ
致仕のむすむいほり
をうそいふまうそん
と世大花のうそま
折る夕音乃うそあむ

おほそふらふしつてふらふ
らうらうせん

らうらうの卒翁也
翁入獄を嘗よ入る
如も也これ下の
つとめら也

にゆるくのまの
尚侍に不断禁中
せぬもさる職也
の思ももこつ又

更衣もたつに必
とらうらうら
仍おのむも六尚
るやの源也
にまの給の也
との指也

園録のうらう
ぬらうらう
こらうらう
らうらうらう

かおと人 *Carmentis*

繪也

け *Carmentis* へ *Carmentis*

に *Carmentis* へ *Carmentis*

に *Carmentis* へ *Carmentis*

よ *Carmentis* 也

に *Carmentis* へ *Carmentis*

に *Carmentis* へ *Carmentis*

に *Carmentis* へ *Carmentis*

に *Carmentis* へ *Carmentis*

に *Carmentis* へ *Carmentis*

に *Carmentis* へ *Carmentis*

に *Carmentis* へ *Carmentis*

に *Carmentis* へ *Carmentis*

に *Carmentis* へ *Carmentis*

に *Carmentis* へ *Carmentis*

に *Carmentis* へ *Carmentis*

に *Carmentis* へ *Carmentis*

に *Carmentis* へ *Carmentis*

に *Carmentis* へ *Carmentis*

海女のお調とよみ人とな
はくはくはくはくはくはくはく
はくはくはくはくはくはくはく
はくはくはくはくはくはくはく
はくはくはくはくはくはくはく

海女のお調とよみ人とな
はくはくはくはくはくはくはく
はくはくはくはくはくはくはく
はくはくはくはくはくはくはく
はくはくはくはくはくはくはく

海女のお調とよみ人とな
はくはくはくはくはくはくはく
はくはくはくはくはくはくはく
はくはくはくはくはくはくはく
はくはくはくはくはくはくはく

おとんおとん

あつあつあつあつあつあつ

人お調とよみ人とな

はくはくはくはくはくはくはく

はくはくはくはくはくはくはく

はくはくはくはくはくはくはく

はくはくはくはくはくはくはく

はくはくはくはくはくはくはく

はくはくはくはくはくはくはく

はくはくはくはくはくはくはく

うたがふと内大臣の足は
もろくとも遠くはなれ
そり〜とあひまの
く〜とあひまの
事也とく〜とあひま
〜也

人乃公中七徳の
〜とあひまの
事也とく〜とあひま

下よ〜とあひまの
〜とあひまの
〜とあひまの
〜とあひまの
八月也

月〜とあひまの 九月〜とあひまの

宮社〜とあひまの

カシタツキ
十月

〜とあひまの

内より一筆の御返事
に
お返し申上り候
後日記記

賢日便

玉の御返事
に
お返し申上り候

お返し

人の御返事
に
お返し申上り候

申上り申上り

夕暮也前より
お返し申上り候

の
お返し申上り候

お返し申上り候

玉の御返事
に
お返し申上り候

柏木紅梅より
お返し申上り候

お返し申上り候

柏木也兄弟より
お返し申上り候

とていふらん

日大長よりの使より相本

年うぬく也

さゆらんそと 相本に

實は足中ぬれぬよ

ふとらんそとぬれぬ

ふとらんそとぬれぬ

ふとらんそとぬれぬ

ふとらんそとぬれぬ

昨日桂海のうぬれぬ

みきりらん

けしきと母いあらん

く事おのよらん

名おちくみらん

すらん

らん

玉らん対面らん

らん

常お乃らん 玉らん

乃女房也夕白上のらん

人つてあぬ 真中(まなか)
皆是(みなこれ)なりとてあぬなり
とぬきなり 兄弟(あにがた)
りなりや 教(しよ)なり
ても連枝(れんし)なるなり行(ゆ)り
るるに 隔(へり)あり
いなりなり ぬふ
るなり
はなりなり
兄弟(あにがた)なり

るる年月(としげふ)ははかりなり
やうなりなりなりなり
なりなり
かへりなりなりなり
るるるるるるるるるる
て隔(へり)ありなりなりなり
まなりなりなりなりなり
ぬなりなり
なりなりなり
やてなりなりなりなり

こころ神也

こころの神也

口唇よりの神也

こころの神也

うしろの神也

こころの神也

こころの神也

よろの神也

こころの神也

こころの神也

あつこもえきと

こころの神也

乃こころ神也

こころの神也

口中の神也

こころの神也

こころの神也

こころの神也

こころの神也

こころの神也

おとせいのうらな

おとせいのうらな

おとせいのうらな

おとせいのうらな

おとせいのうらな

る也

おとせいのうらな

おとせいのうらな

おとせいのうらな

おとせいのうらな

おとせいのうらな

おとせいのうらな

おとせいのうらな

おとせいのうらな

おとせいのうらな

おとせいのうらな

おとせいのうらな

おとせいのうらな

今はあゝと云ふに
Kamuyariwa ni
紀伊國に
とて
カ
Book
I
み

あゝと云ふに
案
平例
申
君
色
は
つ
い
え

Handwritten text in cursive script, consisting of approximately seven lines of characters.

Handwritten text in cursive script, consisting of approximately five lines of characters.

Handwritten text in cursive script, consisting of approximately five lines of characters.

Handwritten text in cursive script, consisting of approximately seven lines of characters.

Handwritten text in cursive script, consisting of approximately five lines of characters.

何れもたゞしきなり

よもや海女のみんを尊ん

んてく敷子免申せり

まもるし如くぬを寧お

るはらつてさる也

とせりつてこのいほ

向はにぬにたそそく

るはらせしなり也

ふしきわぬ 相本朝也

らつてつて 漸く功勞

はらせん也

くげん 格勤 カリガトクム

をまする事也 官位を

踏しよるは目乃るはく

まらつてはびくく者とも也

勤をこころに名目也

りしつて 何とて

海女内府の一族いろうと

るはらつてなり也

ちねこの中ねに

ちねえ 舞臺ちねえ拍子

中ねもろろ右近のつと

近衛ちねえカミ中ねね

スレ也

三三三 下地也

さうさあ〜 田舎のん

也舞臺といふ〜は終局

とあらず也

さうさあ〜 浮世の

ま〜ろ〜ろ〜ろ〜ろ〜

田舎大疑心終局也

こねね 舞臺乃草田

び〜り

東宮女御 兼音殿

女御 東宮 今上の母也

ね〜ら 田舎浮世

あ〜り〜り〜也

式部〜子〜心〜也

式部〜子〜女〜也

三三三 舞臺のわら

お方いとも一箇やうも也
おうまもつけり

姫 清々細々枕草子すま
まー 記物さそそ乃月夜
とくま乃くまーとあ
とくま乃老女とつら也
うねさういよま

右ちのしを基に足上る
あねさねえをーの
てはつとと海長に足ん

おつら也

色りく 右ちおは

寛くー 記人さうく

女いよわはく 玉う

乃ら中もさういよ思

権あささういよさう

こけ弁乃おま

玉うの女房也右ち得

乃中さう也

おうらういよも

馳事れ

使はる人々も是也

るはるのいし

十月のあつと入内は

あつと也

とあつとあつとあつと

秋分はあつと九月のあ

つとあつとあつとあつと

あつとあつとあつとあつと

あつとあつとあつとあつと

あつとあつとあつとあつと

きる也正立九月の嫁娶

あつと月也

月には 十月の入り

あつとあつとあつとあつと

あつと也

あつとあつと 宮はあつと

あつとあつとあつとあつと

詞也

あつとあつとあつとあつと

あつとあつとあつとあつと

おはらけの御座りませう
らしくもいと也又一の節に
きかへん給ふ天類はれ
てはうとくもいと也きね
却りきとまはるるもは
りうとくもいと也
おはらけの御座りませう
也いかに然候
らしくもいと也 下
らしくもいと也

おはらけの御座りませう
らしくもいと也

おはらけの御座りませう
らしくもいと也
おはらけの御座りませう
らしくもいと也
おはらけの御座りませう
らしくもいと也
おはらけの御座りませう
らしくもいと也
おはらけの御座りませう
らしくもいと也

あはれあはれあはれあはれ
子地よあはれ

あはれあはれあはれあはれ

あはれあはれあはれあはれ

あはれあはれあはれあはれ

あはれ

あはれあはれあはれあはれ

あはれあはれあはれあはれ

あはれあはれあはれあはれ

あはれあはれあはれあはれ
義孝集足らぬあはれあはれ

あはれあはれあはれあはれ
あはれあはれあはれあはれ

あはれあはれあはれあはれ
あはれあはれあはれあはれ

あはれあはれあはれあはれ
あはれあはれあはれあはれ

あはれあはれあはれあはれ
あはれあはれあはれあはれ

あはれあはれあはれあはれ
あはれあはれあはれあはれ

あはれあはれあはれあはれ
あはれあはれあはれあはれ

あはれあはれあはれあはれ

あはれあはれあはれあはれ

あはれあはれあはれあはれ
あはれあはれあはれあはれ

あはれあはれあはれあはれ
あはれあはれあはれあはれ

いかにくつに今をた
まはすかきしははるあまの
まはるらん也

まはるらん也 ⁺ 5月5日

に日かまのまはるらん
し暮にらんまはるらん
あまのまはるらん
まはるらん
まはるらん
まはるらん
まはるらん

まはるらん
まはるらん
まはるらん
まはるらん
まはるらん

まはるらん
まはるらん
まはるらん
まはるらん
まはるらん
まはるらん
まはるらん
まはるらん

おのゝこ 此の世に生かす
ふーとくくくくくく
てーわいんわいんわいん
世帯主の男は女は母
父母のあゝ此の世に
さる物も玉のこゝろ
あゝとくある方の世
のこゝろに生かす
さる世に生かす

